

2024年1月20日(土) 六会地区防災リーダー連絡会研修会

メンバー計18名が、東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)(東京都江東区有明3-8-35)を視察いたしました。

そなエリア東京の防災体験学習施設は1階が防災体験ゾーン、2階が防災学習ゾーンとなっており、様々な学習プログラムを体験できましたので紹介させていただきます。



■1階防災体験ゾーン「東京直下72hツアー」(30分)への参加

国や自治体などの支援体制が十分に整うまでは、自力で生き残らなければなりません。その目安は **3日間、72時間**とされています。このツアーは、マグニチュード7.3 最大震度7の首都直下地震の発生から避難までを体験し、タブレット端末を使ったクイズに答えながら生き抜く知恵を学ぶ防災学習ツアーです。



最大震度7の首都直下地震がエレベーターの中で発生 →
 エレベーターから脱出し従業員通路から避難誘導灯と非常放送に従って出口を目指す → 再現市街地被災地へタブレット端末を使って「防災クイズ」に挑戦しながら、「AR体験」で危険箇所を確認 → 再現避難場所へ移動。

ARと連動した実物展示で体育館の避難所生活を体験し、**自助・共助**の大切さを学びました。

■2階映像ホール（25分）、防災学習ゾーン（30分）への参加

災害時の状況やタイミングに合わせた基本の**備え**。
それぞれの人に当てはまる特性や暮らしを探して必要な**備え**を確認する。

ひとりひとりの**備え**など地震発生後生き抜くヒントや**備え**たいグッズの紹介など備蓄と知恵が学ぶことができました。

二次元コードを読み込むと展示物の紹介ページが表示されるなど、とても工夫がほどこされていました。



個人的には、この展示に興味を惹かれました。

「筋トレが生きぬく力になる」防災グッズや避難所での生活に目が向きがちですが、



確かに、避難所まではおそらく歩かなければなりませんし、思わぬ形で力仕事をするようになるかもしれません。

いざという時のために、体力もしっかり蓄えておくよう心掛けたいと思います。

今回の防災学習ツアーを体験し、改めて地震の怖さを実感しました。知っていることが命を守る、生き抜く知恵をこれからも考えていきたいと思っています。

■いざという時に備えたい気持ち

安全を確保すること。状況が改善するまで不用意にそこを動かないこと。



地震が発生した場合、先ず、自分自身の身の安全、生き延びることを最優先します。同行者や傍に身内が居る場合はともに協力しあっても躊躇することなく先ず、自分自身の身を守らなければなりません（自助）。

安全な場所に身を置くことができたなら、居合わせた皆と協力し合って…。

ここで、絶対に不用意な行動を行わないこと。状況が改善するまで、自宅に戻るとか、自宅に居るのなら外に出て状況を確認する等、不用意な行動は行わないこと！！

それを同行者や傍に身内にも徹底すること。

■災害は場所や時間を選んで発生しない

外出中に地震が発生し同行者を亡くす。そういうアニメを見せられます。できれば忘れない。正解がないから、何がNGだったのか何が正解なのか、明確な答えなど無いから。

職場の研修で作業手順を無視して作業したため、若い作業者が亡くなってしまった。そういうビデオを見せられました。かなり凹みました。二度と見たくありません。

しかし、それを回避するための答えはまったく簡単、作業手順を厳守すること。明確な答えがあります。

実際に地震が発生して、命の危険にさらされる。発生した地震の影響で時間が経ってから建物が倒れる、地滑りが起こる、津波が襲う、火災が発生し延焼する、間違った情報を信じ二次災害に巻き込まれる。どうすれば良いか、正解がありません。これをしなければ大丈夫という明確な行動基準もありません。



安全を確保すること。状況が改善するまで不用意にそこを動かないこと。

状況が改善したことが客観的に確認されるまでは一旦確保した安全な場所に留まる。非常時の基本的な行動を慎重に行うこと。これがより良い答えの1つではないかと考えています。備蓄した食料や水、簡易トイレ、持ち出し袋が役に立つのはそれから、と考えます。



現在、想定されている首都直下地震や相模トラフ、南海トラフでの地震発生による災害では、救助隊が助けに来てくれるまでには、長い時間がかかることが容易に想像できます。

助け合いは、ご近所や地域で必要不可欠になるでしょう。そのような時のためにも日頃らご近所の方へのあいさつは大事になってくるのではないのでしょうか。

■ちょっと、息抜き

去年は、コロナ禍でもあったので、午前中みの研修会でしたが、今年はコロナの5類移行もあり昼食を挟んで、キリンビール横浜工場の見学をさせていただきました。土曜日に、団体で予約を取るのはかなり難しらしく、研修会実行委員の方に感謝です。ビールの原料となる麦芽やホップを食べたり、触ったり。また、アルコール発酵する前の一番搾り麦汁を飲んだりといった工場内見学ツアーを90分ほど体験。そのあとは、ブルワリードラフトマスターが、丁寧に注いでくださった一番搾り生ビールの試飲。飲み放題でないのが、残念なところです。とても有意義な1日を過ごすことができました。



東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）

所在地 東京都江東区有明3丁目8番35号

【電車】東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場」駅より徒歩4分
ゆりかもめ東京臨海新交通臨海線「有明」駅より徒歩2分

【バス】都バス 門19甲系統「がん研有明病院前」停留所より徒歩約2分
都バス 東16系統「有明二丁目」停留所より徒歩約7分



キリンビール横浜工場

所在地 神奈川県横浜市鶴見区生麦1丁目17番1号

【電車】京浜急行線「生麦駅」より徒歩約10分
JR京浜東北線「新子安駅」より徒歩約20分

2024年1月27日（土）藤沢市地域防災活動推進大会

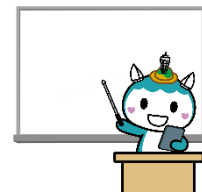
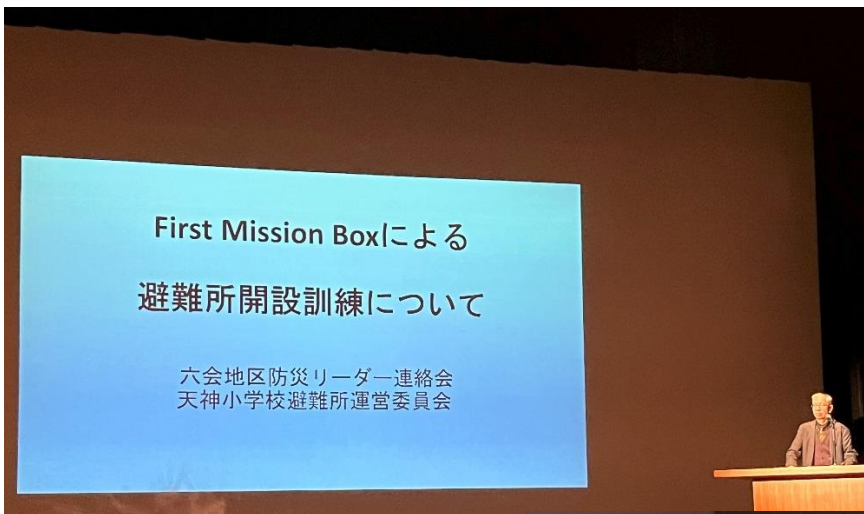
■六会地区防災リーダー連絡会および天神小学校避難所運営委員会 事例発表

藤沢市民会館 小ホールにて、藤沢市地域防災活動推進大会が開催されました。

初めに、藤沢市防災組織連絡協議会の事業報告が行われ、続けて、六会地区防災リーダー連絡会および天神小学校避難所運営委員会の事例発表が行われました。

天神小学校での避難所開設訓練が、去る2023年12月2日に実施され、その時に使用したファーストミッションボックスでの避難所開設の事例を発表しました。

当日は、六会地区防災リーダー連絡会から郷原会長、中尾書記が登壇され、素晴らしい事例発表が行われました。



2024年2月10日には、
六会中学校避難所開設訓練も
実施されました。



2部では、小川雄二郎氏による防災講演会が行われました。

藤沢市のお住いで長らく防災研究をされてきた方で、非常に興味を惹かれる内容でした。

関東大震災の発災時の藤沢町の様子を過去の文書を引用されて説明してくださいました。

また、藤沢市13地区の特性に応じた防災のあり方についての講演内容も役に立つ内容でした。

死なない

このキーワードがそなエリア東京と地域防災活動推進大会での非常に心に残りました。

日頃からほんの少しでも、防災意識をもって生活しなければと感じた行事でした。